

第4報

H17.10.14

# 平成17年台風14号

## 川辺川の長期濁りの状況

### 市民団体との共同調査結果



国土交通省九州地方整備局

川辺川ダム砂防事務所

# 台風14号の出水に伴い、川辺川の濁りが長期化した原因について、市民団体と共同で現地調査を実施しました！

## ～ 濁りの発生箇所の状況を現地調査 ～

現地調査日：平成17年10月6日（水）

### 【参加者】

#### ◆ 市民団体

- ・清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会 …… 3名
- ・漁民の会 ……………… 5名

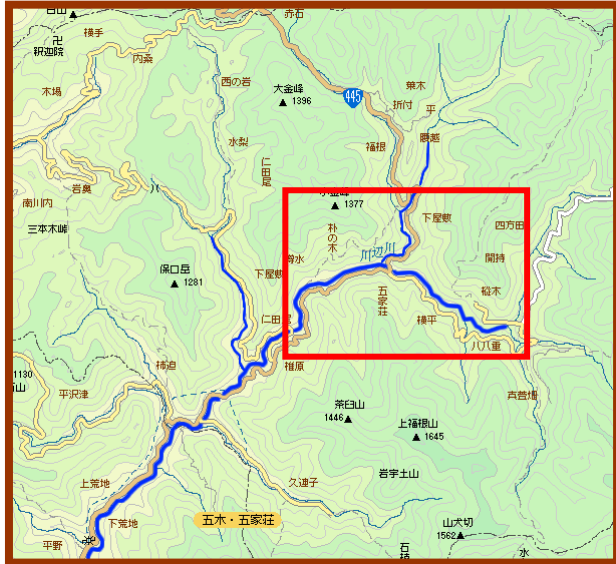
#### ◆ 国土交通省 川辺川ダム砂防事務所 ……………… 4名


#### ◆ メディア ……………… 3社

### 【調査項目】

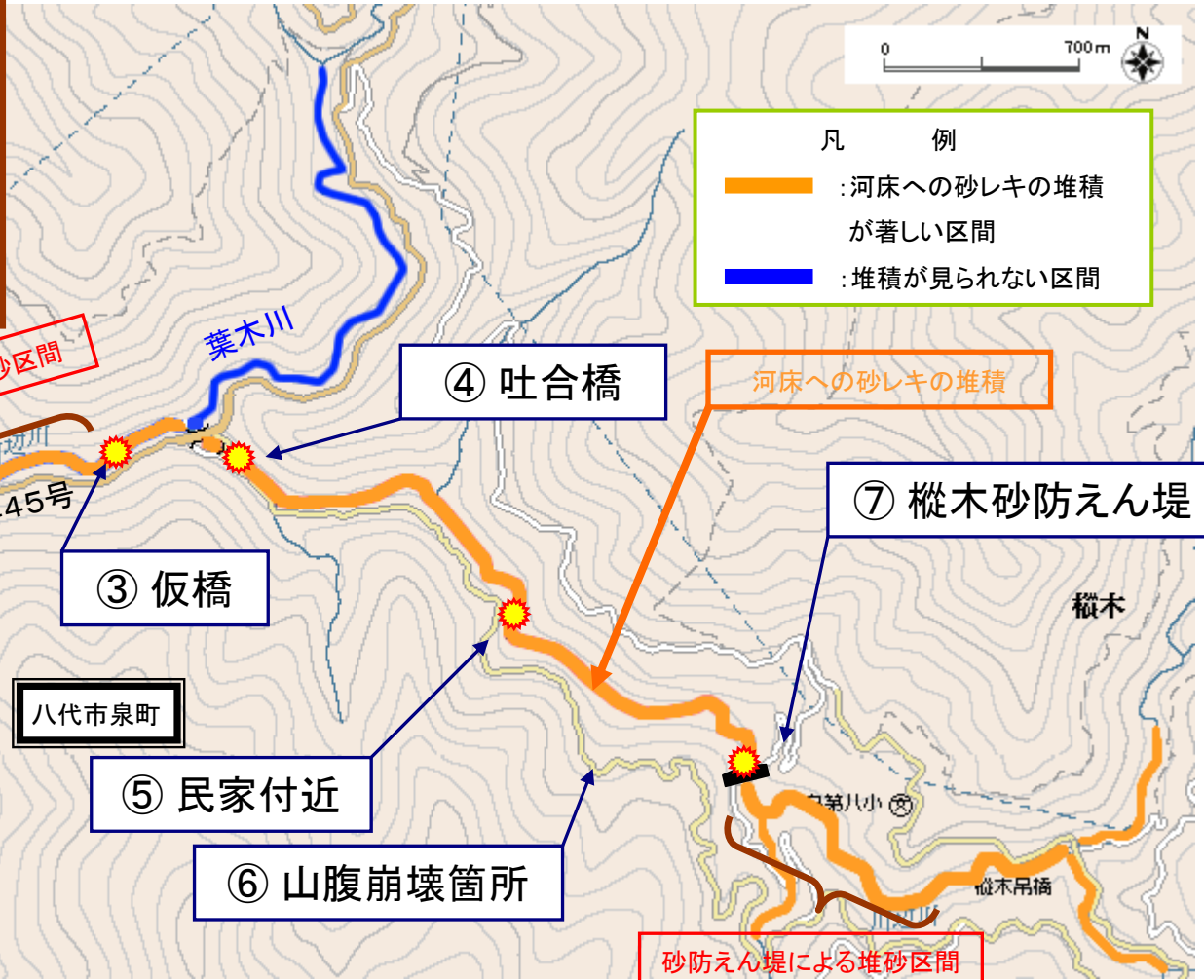
- ①: 河床堆積の状況
- ②: 濁りの状況（各地点でペットボトルに採水し確認）
- ③: 山腹崩壊箇所、河岸崩落箇所の確認
- ④: 朴木砂防えん堤直上流のヘドロの有無の確認（市民団体主張）

# 調査区間



 : 今回採水による調査地点

- ① 桂橋 (朴木砂防えん堤より約2k下流)
- ② 朴木橋・朴木砂防えん堤
- ③ 仮橋 (朴木砂防えん堤より約1k500上流)
- ④ 吐合橋 (朴木砂防えん堤より約2k上流)
- ⑤ 民家付近 (朴木砂防えん堤より約2k600上流)
- ⑥ 山腹崩壊箇所 (朴木砂防えん堤より約4k上流)
- ⑦ 縦木砂防えん堤



# 現地調査時における濁りの状況

## 透視度計による観測



### 透視度計による観測

※ガラス管の中に水を貯め、底に付いた印が見える水位

①桂橋	5 cm
②朴木橋	6 cm
③仮橋	8 cm
④吐合橋	10 cm
⑤民家付近	19 cm
⑦樅木砂防えん堤	100cm以上

※数値が高いほど水が澄んでいる

## 採水による濁度観測



### 濁度結果

①桂橋	94 度
②朴木橋	91 度
③仮橋	62 度
④吐合橋	40 度
⑤民家付近	19 度
⑦樅木砂防えん堤	2 度

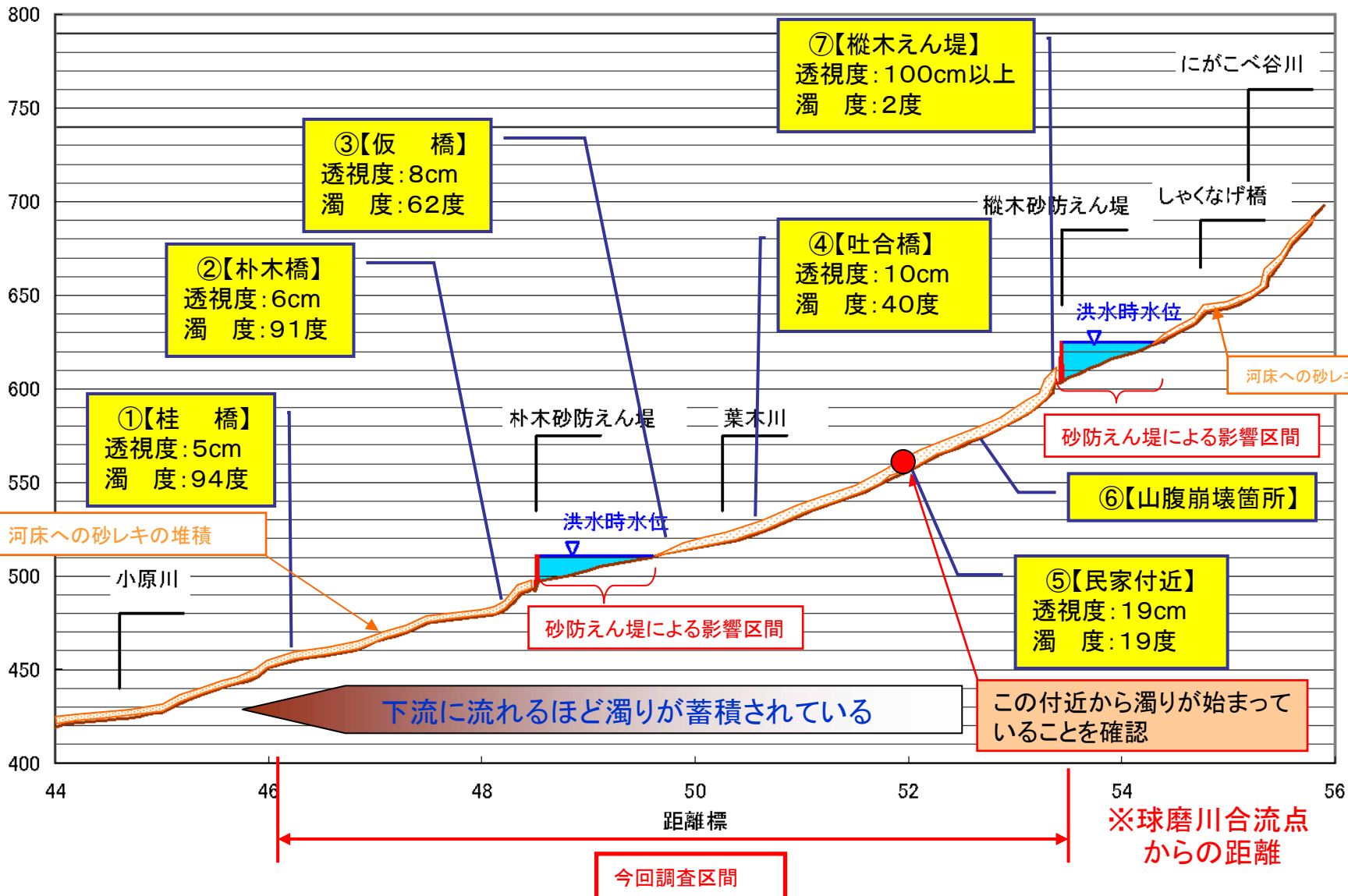
※採水した水を持ち帰って計測

※濁度とは水の濁りを表す指標であり、粘土鉱物であるカオリンが1mg/L含まれた水を1度としています

下流ほど濁りが大きいことを相互確認

# 川辺川河川縦断面図

標高 (m)



合同調査前日(平成17年10月5日)に川辺川上流で34mm(開持雨量観測所)の降雨があり落ち着いてきていた濁りが、再度濁り始めている。

◆民家付近から濁りはじめ、下流に行くに従って濁りがひどくなる事を確認

10月5日採水

降雨

10月6日採水

桂橋



濁度 27度



濁度 94度  
透視度 5cm

朴木橋



濁度 19度



濁度 91度  
透視度 6cm

仮橋

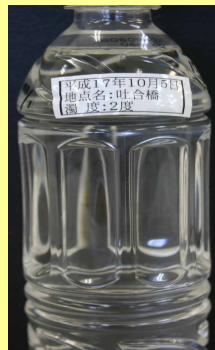


濁度 5度



濁度 62度  
透視度 8cm

吐合橋



濁度 2度



濁度 40度  
透視度 10cm

民家付近

※採水を行っていない

椋木えん堤



濁度 1度



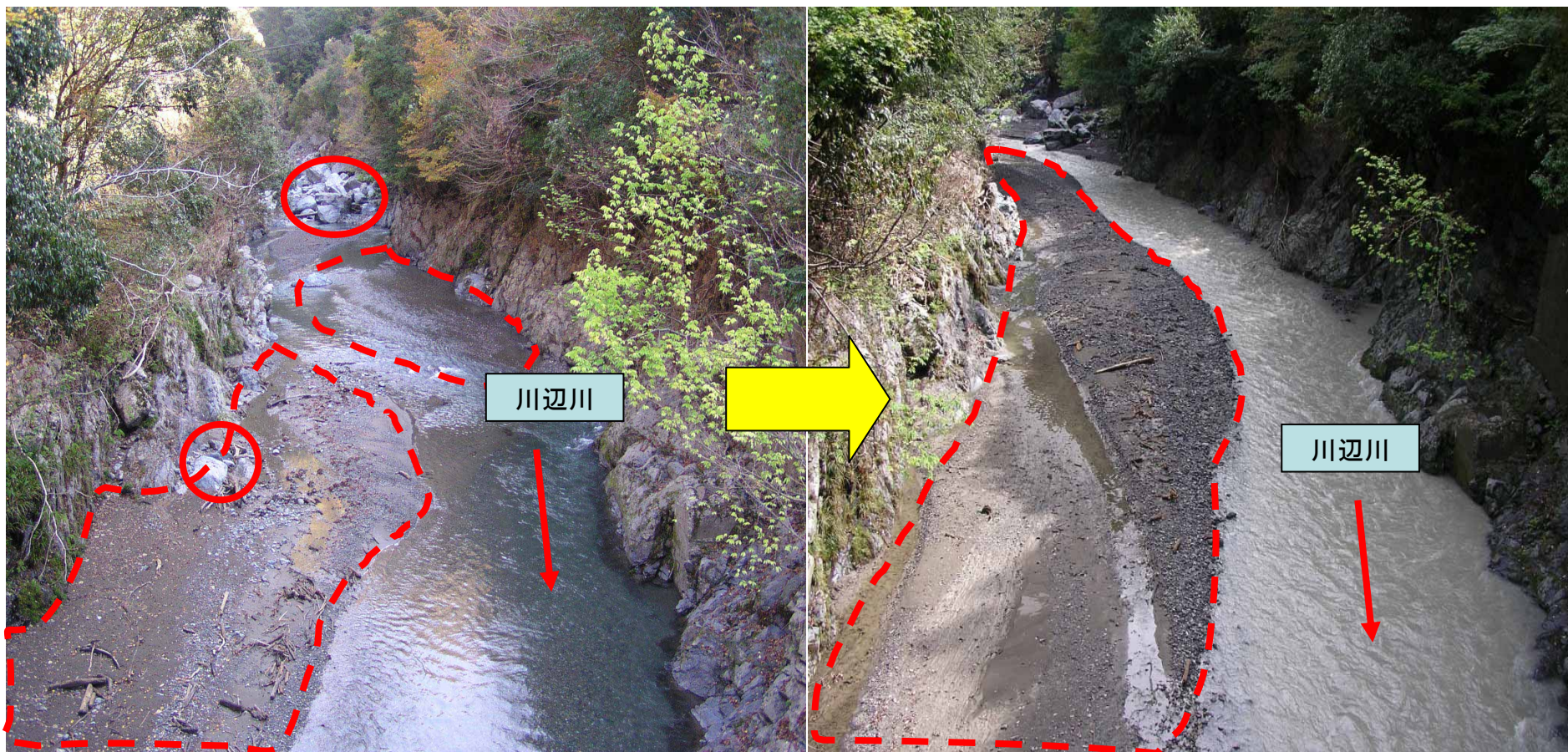
濁度 2度  
透視度100cm以上

下流に流れるほど濁りが蓄積されている

# ①桂橋付近における砂レキの堆積状況 (朴木砂防えん堤より約2km下流)

H16. 11. 16撮影

H17. 10. 6撮影



※平成16年台風16号、18号により堆積が見られる  
※台風後2ヶ月で濁りは見られない

平成17年台風14号で堆積が進行している

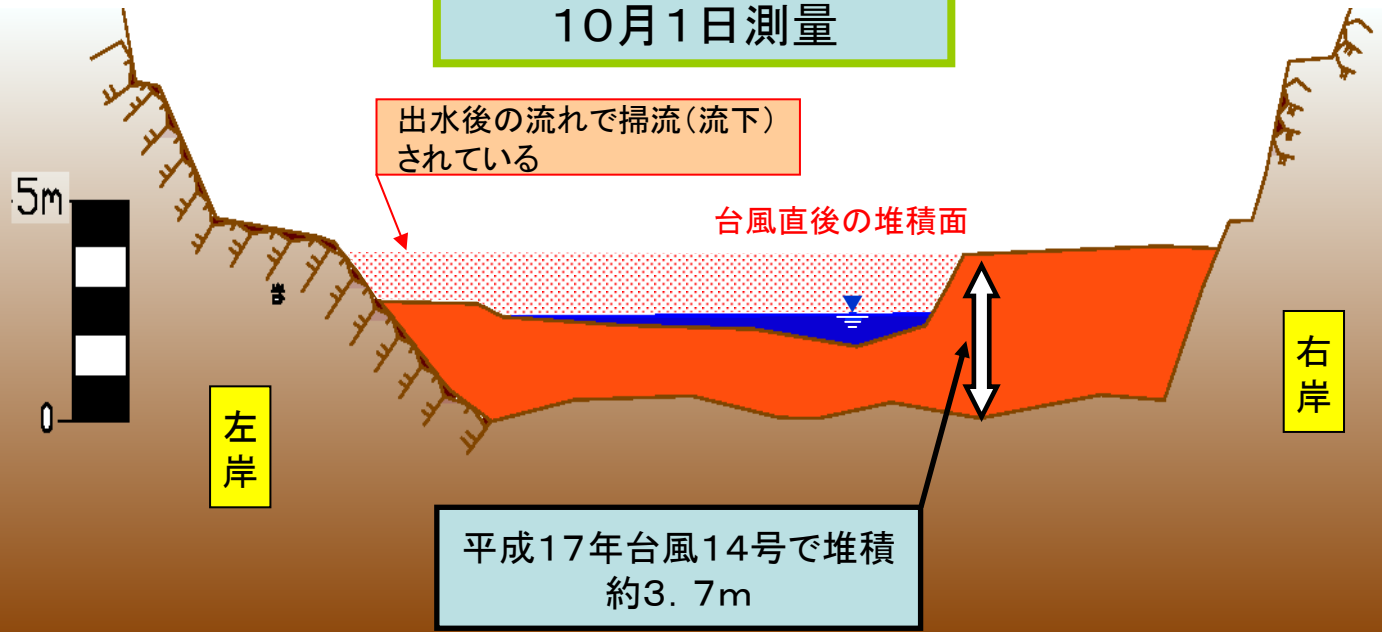
◆写真を比較して河床の転石(○囲い)が見えなくなるほど、堆積が進行している。

## ② 朴木橋

朴木砂防えん堤より  
約100m下流



### 10月1日測量

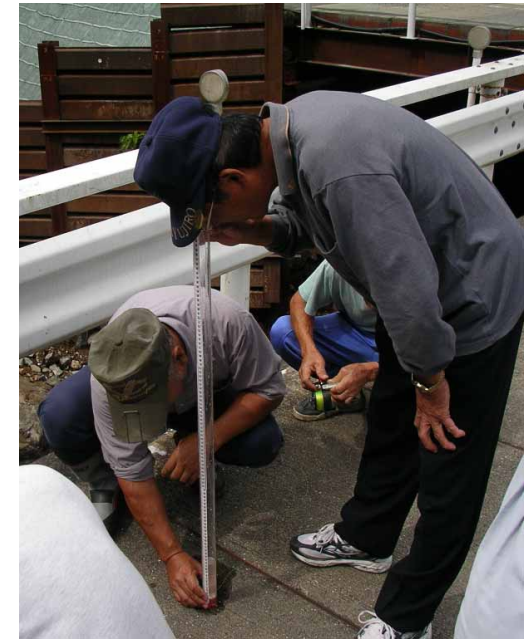


河川横断面図  
(河床への堆積状況)  
約1300m下流



### ③仮橋

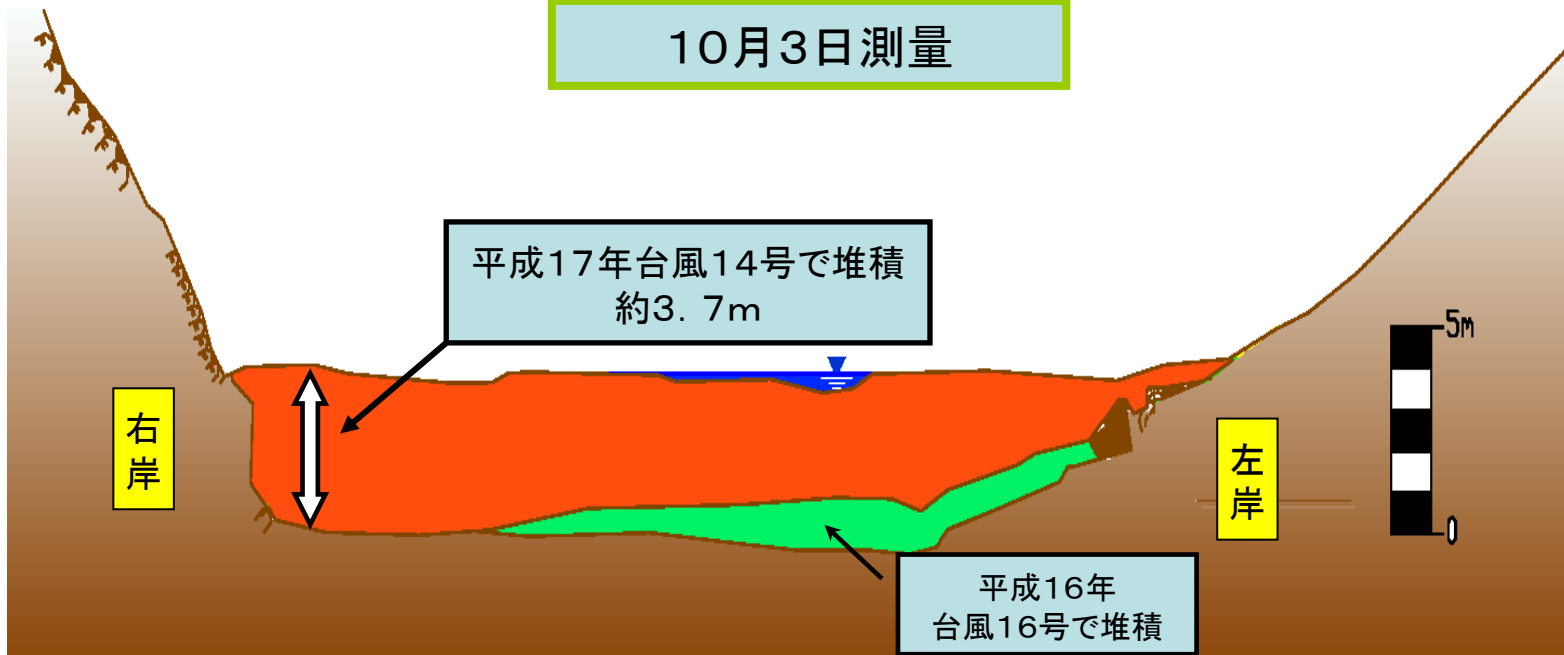
朴木砂防えん堤より  
約1500m上流



透視度計による確認状況

10月3日測量

河川横断面図  
(河床への堆積状況)  
約1500m上流



#### ④吐合橋

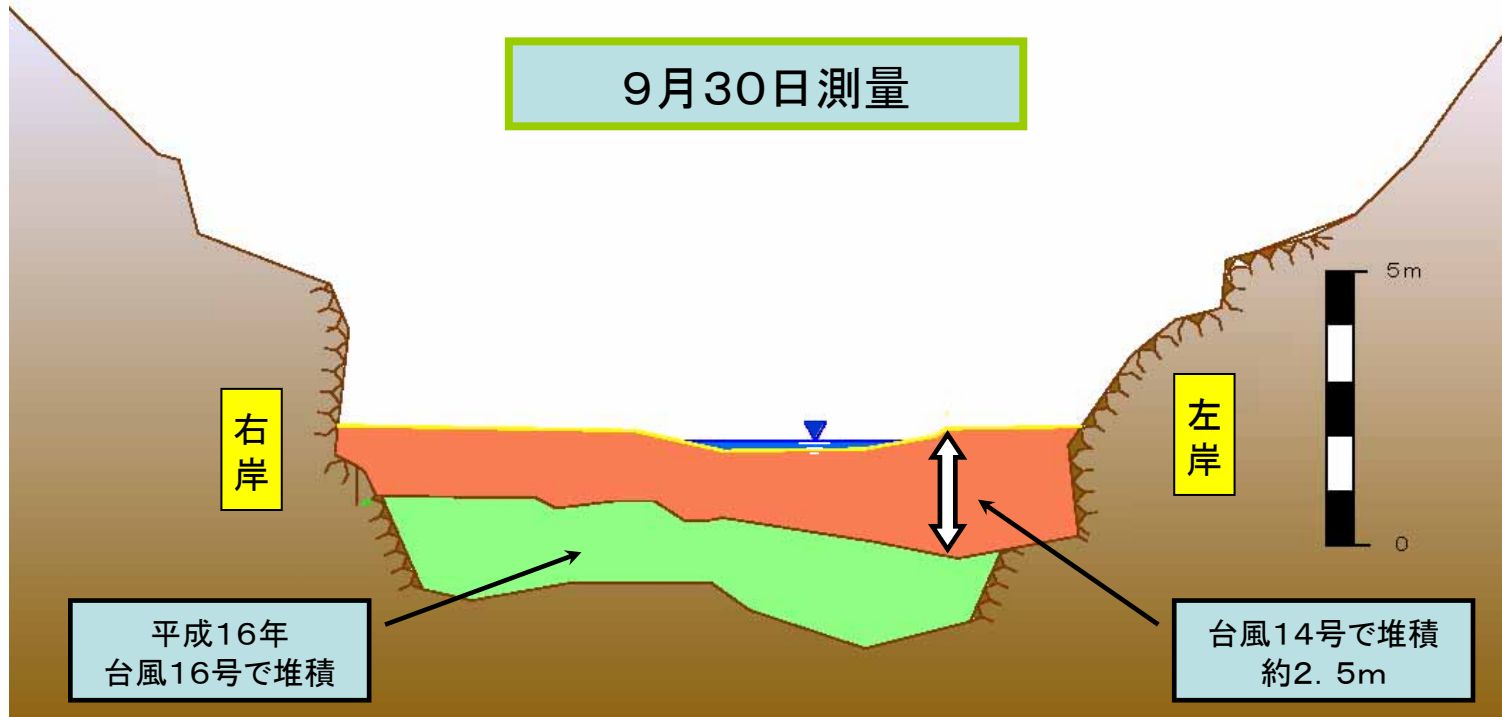
朴木砂防えん堤より  
約2000m上流



吐合橋下流の河床にて  
現地状況確認

9月30日測量

河川横断面図  
(河床への堆積状況)  
約2000m上流



# ④吐合橋付近における砂レキの堆積状況 (朴木砂防えん堤より約2km上流)



平成17年台風14号で堆積が進行している

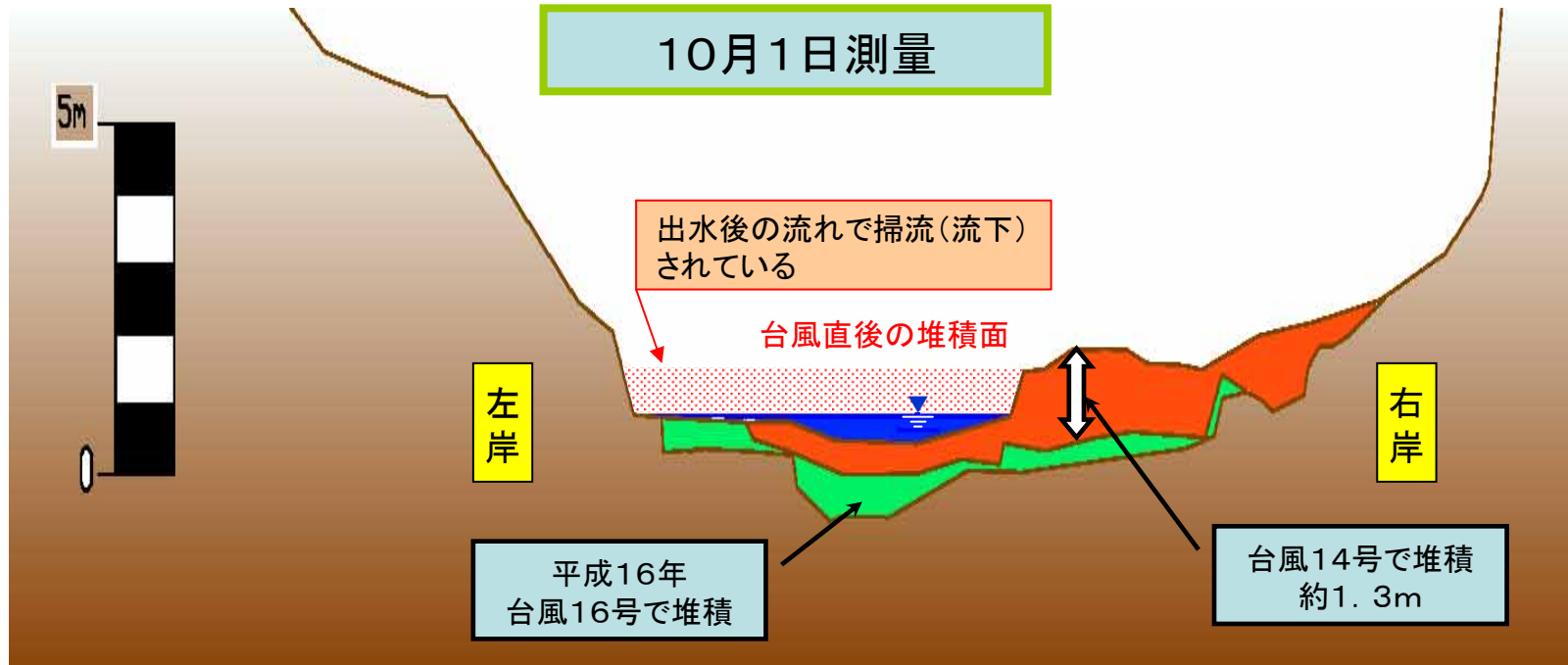
⑤ 民家付近

朴木砂防えん堤より  
約2600m上流  
(民家付近)



※この付近から濁りが始まっていることを確認

河川横断面図  
(河床への堆積状況)  
約2600m上流



# 民家付近における砂レキの堆積状況及び山腹崩壊状況(人家より約1.4km上流)

⑤民家付近



※濁りの発生状況

⑥山腹崩壊箇所



◆民家付近より約1.4km上流の山腹においても大規模な崩壊が起きている

# 砂防えん堤直上下流の状況

② 朴木砂防えん堤直上流



⑦ 樅木砂防えん堤直下流



- ◆ 砂防えん堤直上流の堆積物はヘドロでないことを確認
- ◆ 堆積物(細砂)が長期の濁りの原因でないことを確認
- ◆ 樅木砂防えん堤の水抜口については濁りが発生していないことを確認
- ◆ 朴木砂防えん堤の直上流～直下流で急に濁る状況は確認できなかった

# 平成16年の台風16号、18号の出水 では、緑川でも濁りが続きました！

- ◆ 今回の川辺川と同じく、台風に伴う集中豪雨により緑川の源流域で、山腹崩壊などが発生し、大量の土砂が一度に河川に流れ込んだため、濁りが長く続きました。

◎ 台風16号：平成16年8月30日

◎ 台風18号：平成16年9月 7日

◆ 河川の濁りが高かった期間：

台風16号後、降雨の影響もあり約45日間続きました。

清流館

緑川

青葉の瀬

緑川

津留観測所

緑川

※ 緑川ダム上流(源流域)の状況(台風16号の後)

# 共同調査のまとめ

## ◎共同調査で確認した事項

- ①: 今回調査した全区間において、砂防えん堤に関係なく河床に砂レキが堆積していることを確認した。
- ②: 民家付近(朴木砂防えん堤約2600m上流)から濁りはじめ、下流に行くに従って濁りがひどくなる事を確認した。
- ③: 砂防えん堤直上流の堆積物はヘドロでないことを確認した。
- ④: ③の堆積物(細砂)が長期の濁りの原因でないことを確認した。
- ⑤: 朴木砂防えん堤の直上流～直下流で急に濁る状況は確認できなかった。
- ⑥: 縦木砂防えん堤の水抜口については濁りが発生していないことを確認した。



# 新聞報道



川の水の濁りを調査する市民団体のメンバーと川辺川ダム砂防事務所職員

## 砂防ダム一帯調査

川辺川が長期間濁っていることを受け、市民団体清水流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域都市民の会(緒方俊一郎会長)や国交省川辺川ダム砂防事務所の職員ら12人が6日、八代市泉町の林木砂防堰堤(砂防ダム)

川辺川が長期間濁っていることを受け、市民団体清水流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域都市民の会(緒方俊一郎会長)や国交省川辺川ダム砂防事務所の職員ら12人が6日、八代市泉町の林木砂防堰堤(砂防ダム)

濁った状態が続いているのは、先月6日の台風14号の後、同会は「砂防ダムの上流に堆積した土砂の影響で濁水が発生している」として、先月下旬、同ダムを含む二つの砂防ダムの撤去を同省側に要求。共同での原因調査を申し入れていた。

参加者は、砂防ダムの約2キロ下流から車で移動し、数か所で川の水をペットボトルに採取して濁り具合を目視で確認。また、ダム近くや上流域の河床や浅瀬に土砂がたまっている様子をビデオカメラに収めた。

市民の会事務局の木本雅己さん(53)は「土砂の堆積状況がわかった。水の濁りなどを分析し、改めて疑問点を尋ねたい」と話した。

同事務所は「台風の影響で流域の195か所では山腹が崩壊し、土砂が流出した影響で濁っている」と説明、砂防ダムが主因でないとの考えを示している。

## 濁りや土砂堆積調査

川辺川 市民団体と砂防ダム周辺5地点

九月六日の台風14号通過後、川辺川の濁りが続いている問題で、流域の市民団体と国土交通省川辺川ダム砂防事務所は六日、八代市泉町の五家荘地区にある林木(ほのぶのき)砂防ダムなどで、濁りや河床の土砂堆積(た いせき)状況を共同調査した。

同事務所職員四人が参加して調査した。濁り具合を確認する共同調査の参加者(八代市泉町)



「清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域都市民の会」などが、濁りの原因として同砂防ダムによる上流への土砂堆積を指摘。同事務所は「ダムが主因ではない」としたため、同会員ら八人、

川辺川の水を採取し、濁り具合を確認する共同調査の参加者(八代市泉町)

による土砂堆積は全地点で見られた。同事務所によると、台風による山腹崩壊などで、調査地点全域で一五センチの土砂が堆積したという。濁りは上流に向かって徐々に低減した。

市民団体は「ダムから流れ出す水が直下の土砂を巻き上げ濁りが増す」とも指摘していたが、ダム下流で急に濁る状況は確認されなかった。

同事務所の頼木和博調査設計課長は「林木砂防ダムの場合、土砂堆積は洪水時に水がたまる上流一・四キロまで。土砂はその上流にも堆積しており、濁りは全域に土砂が堆積したため、ダムが主因ではない」とあらためて説明した。

市民団体側は「砂防ダムにより流速が落ちるなどしてダム湖より上流に砂がたまった可能性もある。土砂堆積のメカニズムをさらに検証する必要がある」と話した。

(木村彰宏)